

「問いのコミュニティ」開設の背景 II | 文明社会編

一人の判断は時に重く、時にささやかに見えるが、
何百、何万、何千万という判断が積み重なると、

市場になり、
法になり、
教育になり、
人工知能の学習データになり、
文化になり、

最終的に文明になる。

つまり、
文明とは、判断の堆積です。

- a. 文明は、判断の歴史的な堆積である。
- b. 人間は、その文明のなかで判断を学び、行為を重ねる。
- c. その判断は、ことばや記号によって方向づけられる。
- d. その積み重ねが、新たな文明を形成する。
- e. その文明が、次の世代の人類の条件になる。

「問いのコミュニティ」は、
このうち c. に焦点を当てています。

ただし、ことばや記号だけを単独で扱っているわけではありません。

a から e. へと続く循環システムの中に、c. を位置づけています。

このことから、「問いのコミュニティ」が問う基本的設問は、
大きく言えば、以下の二つです：

(1) 文明のなかで、判断がどのように形成されるか

ここでは、文明を、人間・機械・自然の相互作用によって形成される環境として捉えます。
そのうえで、人類の諸活動で起きている判断形成の機構を見ていきます。

(2) 日々の実践の場で、ことばは、どのように判断を形成するか

職務／生活／個人単位の判断もまた、ここでは重視されます。

(1) と (2) は切り離せないからです。

「問いのコミュニティ」で取りあげていることを慎重に、
しかし一言でいえば、

文明社会における判断形成のエコロジー

です。

Ecology という以上、一人ひとりの人間もまた、
判断の連鎖や判断の生態系に作用し、影響を受けます。

だからここでは、文明社会という大きな循環を見ながら、
日々の場で使われる一つひとつのことばにも目を向けます。

この双方を扱う場として、「問いのコミュニティ」は開かれています。

本制作物は、閲覧・保存・印刷・共有いただけます。

ただし、文章・構成・図版を、出典を示さずに転載・改変・転用することはお控えください。